



「こども食堂ファーム」～空き家で作る野菜と魚で、こどもたちを笑顔に！～

1.提案コンセプト

- 私の考える豊かな暮らしとは、「地域で支え合うことのできる暮らし」です！
- ・身近に困った人がいることを認識でき、その人たちに気楽に支援の手を差し伸べられるような、人と人の温かいつながりのある暮らし。
- ・困った状況に置かれていても、地域の人が支えてくれるという安心感を持てるまち。

そこで私は、空き不動産の活用を通して、「地域のこども食堂を支援する取り組み」を提案します！

2.対象とする空き不動産の概要

福岡市東区にある、高齢の親戚が住んでいた空き家を想定しています。今は借家にする予定も売却予定もなく、何も活用されていません。近隣には、こども食堂に加え、福祉施設や高齢者施設、大学があり、空き家を通じた地域交流の可能性のある立地です。



対象の空き家

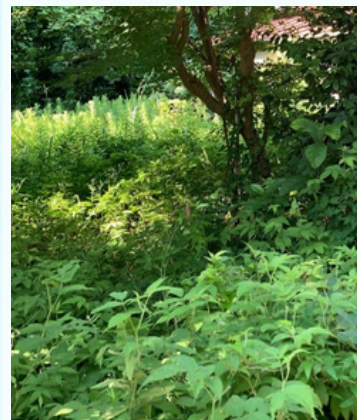
3.空き不動産の使い方

こども食堂では、食材の確保、特にタンパク質の摂れる食材の不足が問題となっています。また、食堂が地域に受け入れられる存在となることも重要課題と言えます。そこで、環境に配慮した「ソーラーシェアリング農業・アクアポニックス・陸上養殖」を通してこども食堂に食材を提供する農場「こども食堂ファーム」を作り、地域住人同士の交流も図ります。

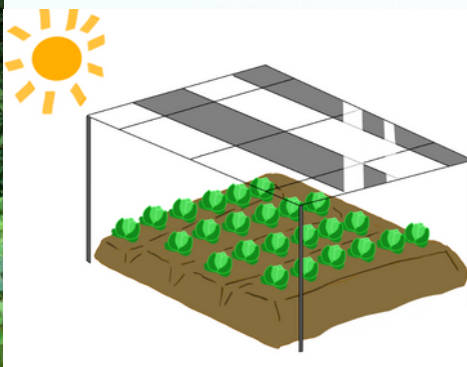
① 庭 「ソーラーシェアリング農業による市民ボランティア農園」

家屋に隣接する畑にソーラーパネルを設置し、その下の半日陰で野菜や果物を育てる「ソーラーシェアリング農業」を行います。

- ・ボランティア農園として市民へ貸し出します。
- ・高齢者施設のお年寄りの園芸療法の場として活用します。



家屋に隣接する荒れた庭(畑)



ソーラーシェアリング農業

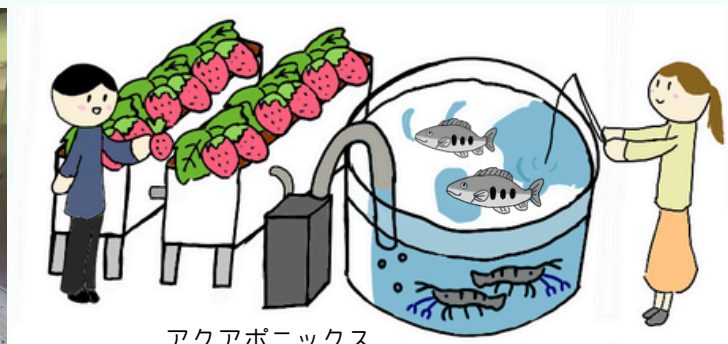
② 土間 「アクアポニックスによる、いちご狩りと釣り堀り体験広場」

光の入る土間ではアクアポニックス※を設置し、野菜に加え魚介類も育てます。

- ・こどもたちや地域住民が楽しく集える場を提供します。
- ・こども食堂の啓発活動の場として利用します。
- ・栽培キットを販売し、同様の食材生産支援を個人宅でも行えるようにします。
- ・持続可能な食料生産や、命を頂くことの意義について学ぶ機会を提供します。



光の入る土間



アクアポニックス

※アクアポニックスとは？
魚介類と植物を同時に栽培できる、持続可能な陸上養殖システムのことです。魚にエサを与えて水槽の水を野菜のプランターに循環させることで、バクテリアによって分解された魚のフンを養分として、水耕栽培の野菜が成長します。

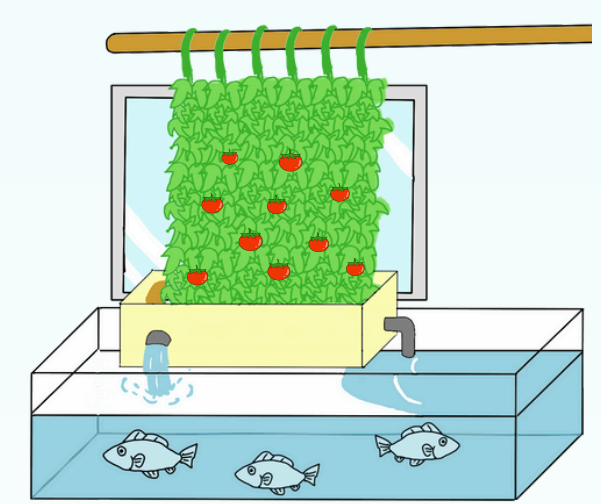
③ 室内 閉鎖循環式陸上養殖による「魚介類の生産」

光が入らない室内では、閉鎖循環式陸上養殖施設や、LEDを利用したアクアポニックスを設置し、魚介類や野菜を栽培します。

- ・福祉施設の作業場として、障がいを持つ人に仕事の機会を提供できます。
- ・貴重なタンパク源となる魚をキッチンで捌いてこども食堂に提供します。
- ・収穫可能な野菜でグリーンカーテンのアクアポニックスも設置します。



室内（キッチン）



グリーンカーテンのアクアポニックス

4.この提案がどのように豊かな暮らしを支えるのか

①住んでいるこどもたちが安心感を抱けるまちづくり

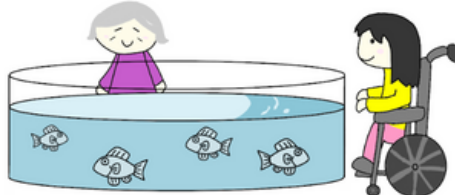
この活動により、地域のこども食堂への食材支援が可能となり、地域で暮らす困難を抱えたこどもたちが、地域の人に支えてもらっているという安心感が得られます。

②支援活動の輪の広がり

- ・地域住民による活動を通して、こども食堂が地域に受け入れられやすくなります。
- ・体験広場に人を集めて啓発活動を行うことにより、多くの住人に、地域に困っているこどもたちがいることを認識してもらえるようになるとともに、自ら食材を栽培するなど、自発的なボランティア活動を行う人が増えることに繋がります。

③農福(農業と福祉の)連携

- ・福祉施設の作業場として、障がいを持つ人たちに仕事の機会を提供できます。
- ・高齢者施設のお年寄りの園芸療法の場所として活用できます。



閉鎖循環式陸上養殖

④持続可能な食料生産で、SDGsに貢献

- ・ソーラーパネルの設置、水の循環、グリーンカーテンの設置など、カーボンニュートラルでの運用を目指せます。
- ・魚の餌は、魚粉を使わないものを与え、稚魚は、人工繁殖のものを利用することで、天然資源に影響を及ぼさない持続可能な食料生産を行います。

⑤持続可能な食料生産についての教育、啓発活動

様々な形態の食料生産の過程を実際に見ることで、地域課題の解決という狭い視点から、食料自給率や資源管理といった、グローバルな社会問題の解決へと視野を広げていける機会を提供します。

5.まとめ

支援を受けるこどもたちが笑顔になるだけでなく、そこで働いたり活動したりする地域住人たちも、こどもたちの役に立っていると実感することで、同様に笑顔になります。

このように、空き不動産を「こども食堂ファーム」として活用すれば、

皆に温かい笑顔の輪が広がる、優しさあふれる心豊かな暮らしが送れる地域づくりに貢献することができるのです！